

森づくりの最前線

東京神奈川森林管理署 丹沢森林事務所 森林官 佐藤 将道



神奈川県最高峰蛭ヶ岳山頂から望む富士山



鍋割山荘と鍋焼きうどん

私が勤務している丹沢森林事務所は神奈川県北西部に位置し、秦野市と山北町の国有林約2千㍍を管理しています。

管内には、神奈川県最高峰、蛭ヶ岳（標高1,672㍍）のほか、丹沢山（1,567㍍）、塔ヶ岳（1,490㍍）、烏尾山（1,136㍍）、鍋割山（1,272㍍）があり、丹沢の年間登山者数は、約31万3千人と言われており、その多さからも丹沢の自然や山頂からの美しい景色などを満喫していることが伺えます。登山者層は、私が見ている範囲では中高年齢層が比較的多いのですが、最近では山ガールが流行で若い女性の登山姿も数多く見られるようになりました。

また、FM横浜のラジオ番組「E-ne！（イーネ）～good for you～」でも丹沢の自然や登山について時々紹介されており、神奈川県民を含めた多くの方が、丹沢に親しみを抱いていることを感じます。ちなみに、鍋割山に登られる際には、鍋割山荘の支配人が作る「鍋焼きうどん」を是非、賞味して戴くことをお勧めします。

多くの方が丹沢に関心を寄せる中、登山者の集中やシカの増加による、登山道や周辺森林の荒廃を防止するため、平成21年度に秦野地区歩道整備工事として天神歩道等に雨水による表面侵食を防ぐ簡易丸太筋工（約2,280㍍）を施工するとともに、周辺森林の間伐（約16㍍）や植生保護柵の設置（29箇所）を実施しました。

丹沢では、シカの食害により下草が殆ど生えず、一雨降れば土砂が流失し山腹崩壊を招き兼ねない状況となっています。そのためシカの侵入を防ぐ植生保護柵の設置は重要な役割を担っていますが、植生保護柵を設置した効果もあり、下草が僅かに生えてきました。平成22・23年度にも、丹沢緑の回廊事業として竜ヶ馬場・日高稜線と不動ノ峰に延長1,520㍍の植生保護柵を設置しました。今後、丹沢の山に下層植生がたくさん生い茂り、大雨が降っても雨水を吸収でき、土壌の浸食を防止するなどの水源かん養機能が十分に発揮できることを期待しています。



雨水による表面侵食を防ぐ簡易丸太筋工

現場を預かる森林官は、こうした植生保護柵の損傷の有無や柵内へのシカの進入状況確認、柵の中の植生回復状況を調査するのも業務の一つです。

それ以外の丹沢での業務は、森林の状況や民有地との境界確認、山小屋や歩道の貸付地の管理状況の巡視などがあります。丹沢の山は、車を降りてから目的地まで1～2時間を要し、山頂までは約1,000㍍もの高低差があり、年齢的にも若くない私が登り降りするのはかなりキツイものがあります。

しかし、丹沢の山が多くの人に親しまれていることを思えば、より安全に安心して登山が楽しめるよう心掛け、国有林の山の番人としての使命を背負い、老体にムチを打って日々の勤めに奮闘して行きたいと思えます。



シカの食害を防ぐ植生保護柵